

**11 月を振り返って**

4年生の皆さんは、今ちょうど卒業研究の山場に差し掛かっているところだと思います。自分の中の専門性を高められる最大のチャンスです。思う存分研究に取り組んでください。社会人になった時、自分の専門領域を持っていることはとても大切です。さらに取り組んだ研究の成果をまとめて、論文やプレゼン資料として発表することは、皆さんが社会人として、世の中に新しい価値を提供していく際に、とても重要な手段となります。さらに専門性がある＝軸足がしっかりしていれば、多少のストレスがかかってもへこたれることはありません。なぜならば自分の中に自信の持てる成果＝軸があるからです。

教職課程センターに登録した3年生の皆さんは、すでに面談も終わり、一次選考の準備と論文作成に取り組んでいます。一次選考の準備は、基本的には過去問に取り組んでいただくこととなります。過去問をよく分析すれば、自治体ごとに出題傾向もわかると思いますので、計画的に勧めていきましょう。論文作成はとにかくテーマを変えて何本も書いてみる必要があります。最初はなかなか筆が進まないかもしれませんが、お渡ししてある「論文作成の手順」「論文の構成」等の資料を参考にして、とにかく書いていきましょう。最初は時間がかかってもOKです。とにかく書いたものから提出してください。添削を受けて修正していく中で、「型」が身についていきます。こちらもぜひ計画的に進めてほしいと思います。

11月30日（土）には「合格体験発表会」を実施しました。今年度採用選考に合格した6名の4年生に、合格までの道のりを語ってもらいました。やはり対戦したものにしか語れない項目もたくさんあると感じました。3年生の皆さんには、ぜひ先輩の体験から学んでほしいと願っています。

**12月の予定**

11月30日（土）に行われた「合格体験発表会」に続いて、12月7日（土）には、「卒業生のお話を聞く会」が予定されています。ぜひそちらに参加して情報を得てください。これから教育実習に臨む皆さんは、教職に対して漠然とした不安や、疑問を抱えていることと思います。「先輩のお話を聞く会」では、数学、理科専攻で、現在中学校と高等学校で教員として勤務されている卒業生の先輩をお招きして、実際の教育現場の様子や、教員としてのやりがいや困難な点等について、生の声を聴かせていただきます。教育現場で活躍している先輩方の話を通して、不安や疑問を解消していただきたいと思います。

**★卒業生のお話を聞く会**

12月7日（土）13:10～16:50 西館3階 W304 教室

例年は卒業生のお話を聞く会の前段として、「都教委による教職説明会」を実施していたのですが、今年度は都教委担当者との日程調整がつかずに、こちらは実施できなくなりました。代わりに教職課程担当の、田神先生、辻本先生と、教職課程センターが共催で、教職に関する皆さんの疑問にお答えする企画を考えています。こちらもぜひ楽しみにしてください。

## 今年度の採用選考について

報道等でご存じのように、教員採用選考を受験する志願者は、以前に比べて減ってきています。自治体によっては、合格者数が採用予定者数を下回ってしまい、秋に追加募集をかける自治体も現れました。事態の深刻さは深まっていると言えるでしょう。そんな背景を受けて、採用選考の課題のうち、論文の課題については、従来の傾向とは違う、新しい傾向が見えてきています。今月号ではそんな論文選考の特徴について分析してみたいと思います。

### ★東京都

次の問題について、(1)と(2)を合計して30行(1050字)以内で論述しなさい。ただし、26行(910字)を超えること。

各学校では、児童・生徒に他者への共感や思いやりの心を育てる教育を目指しています。

(1)児童・生徒に「他者への共感や思いやりの心を育てる」ことについて、あなたの考えを述べなさい。

(2)(1)の考えを踏まえ、あなたは教師としてどのように取り組んでいか、志望する校種と教科等に即して述べなさい。

### ★埼玉県

社会の激しい変化に対応していくためには、どのような時代にあっても身に付けておくべき基礎的・基本的な力と、どのような変化にも柔軟かつ創造的に対応できる力の両方が求められます。このうち、「どのような変化にも柔軟かつ創造的に対応できる力」として、具体的にどのような力を育むことが大切だと考えますか。あなたの考えを述べなさい。また、そのことを踏まえてあなたは一人の教員としてどのように教育活動に取り組んでいきますか。具体的に述べなさい。

### ★神奈川県

神奈川県では、あらゆる教育活動を通して「いのち」のかけがえのなさや、夢や希望をもって生きること、人への思いやり、互いに支えあって生きることの大切さなどを生徒一人ひとりが実感できるように「『いのち』を大切に」する心をはぐくむ教育」「キャリア教育」「インクルーシブ教育」など様々な教育施策を推進しています。このような教育を推進するために、あなたはどのような姿勢や意識をもつことが大切だと思いますか。また、そのことを踏まえ、どのような教育活動に取り組みますか。あなたの考えを600字以上825字以下で具体的に述べなさい。

### ★千葉県

あなたは、学級担任や授業担当者として、「子供たちの自己肯定感を高める」ために、どのように取り組みますか。児童生徒の育成すべき資質・能力について触れながら、具体的に800字以内で述べなさい。

### ★横浜市

GIGAスクール構想について述べなさい。また、GIGAスクール構想を踏まえて、あなたはICTの活用にどのように取り組みますか。あなたの考えを具体的に述べなさい。(800字以内)

### ★川崎市

川崎市の求める教師像に「子どもの話にきちんと耳を傾けることができる」があります。このことについてあなたはどのようなことが大切だと考えますか。またそのためにどのような取組をしますか。具体的に600字以内で述べてください。

以上、関東地方の自治体で今年度出題された論文課題を取り上げてみました。特に□で囲んだ部分は、皆さんが具体的に対策を述べなければいけない部分（論文で要求されているテーマ）です。

従来（2022年ころまで）出題されていたテーマは、① 授業力の向上、② いじめのない集団作り、③ 個に応じた指導、④ グローバル化への対応、⑤ 情報を活用する力の育成、など「教員の資質能力の向上」や「子どもたちに身につけさせたい力の育て方」を問う設問が多かったのですが、昨年あたりからテーマの傾向が変わってきていて、「思いやり」「柔軟性」「心」「態度」「自己肯定感」など、『子どもたちの資質の向上』を問うような設定が増えてきているのです。

変化の理由を考えると、採用選考への応募者が激減している現実を踏まえて、「教員の資質能力の向上」をあまり前面に出すと、応募者が今以上に減ってしまうのではないかと心配する、採用者側の心理の変化があるように思います。とりあえず論文のテーマとしては抽象的ではあるが、「誰でも書けないことはない」抽象的なテーマに設定しておいて、あとは論文の中身を精査して人物像を見極めようとしている、とも言えるでしょう。



私は、この変化は、決して論文選考の難易度が下がったということではなく、与えられた抽象的なテーマを受けて、自分が教員として「どのような具体的実践を行うか」という実践力を問う形に変化してきている、と受け止めています。

もしそうであれば、我々受験生側のとるべき戦略としては、「より踏み込んだ具体的な対策」を論ずることが重要となります。現在論文対策に取り組んでいる3年生に向けても、この「具体的な実践力」を書き込むことができるようにアドバイスしていこうと考えています。



また論文で、具体的な対策についてしっかり自分なりの考えに基づいて記述する経験は、その後の面接の際にも非常に役に立ちます。具体的な対策が多ければ多いほど、面接で問われたときに様々な引き出しの中から、質問にふさわしい内容を取り出して、自分なりのストーリーを構成することができるからです。さらに今皆さんが取り組んでいる経験は、将来教員として生徒たちの前に立った時に「実践力」として役に立つものばかりです。生徒の人生に関わる教員としての決意を固める意味でも、しっかりと取り組んでいきましょう。



教師の中には、生徒に好かれる（好感度が高い）教師がいる反面、生徒に嫌われる（好感度が低い）教師が一定数いることは事実です。皆さんも自分の中学・高校時代を振り返ってみれば、思い当たる先生がいたことと思います。私はこれから教師（GREAT TEACHER）を目指そうとしている皆さんには、多くの生徒の記憶に残る教師、生徒に様々なプラスの価値観を残せる教師になってほしいと思います。どうせ教師をやっていくなら、生徒たちと良好な人間関係を保ちながら、お互いに信頼しあえる雰囲気の中で教育活動を展開できる方がいいに決まっています。一方で、世の中には力で抑えて君臨したがるタイプの教師もいます。「生徒は絶対に甘やかしちゃだめだ。甘やかしたらなめられて指導に従わなくなる。有無を言わず教師の指導に従わせるべきだ！」と主張し、「だから自分はわざと生徒から嫌われる役を演じているんだ」とつぶやく教師たちを、今までに何人も見てきました。しかし結果としてそんな教師たちは生徒からの人望は得られないし、忘れ去られていか、「恨み」という形で記憶に残るしかないのです。生徒は教師の心情を見抜いています。生徒は、温かみのない指導には従わないし、信頼も得られないことを肝に銘じておくべきです。

◇ **中高生がきらいなタイプの先生 ワースト 10**

- 生徒を見下す。上から目線で接する。
- 一方的にまくしたてる。怒鳴る。
- 指導が厳しすぎる。減点主義で指導する。
- 価値観に偏見がある。特定の生徒をひいきする。
- 感情的になる。
- 授業が退屈で面白くない。
- 指導力がない。説得力が感じられない。
- コミュニケーションが下手。なかなか言葉が通じない。
- いやみ、皮肉が多い。
- 柔軟性がない。頭が固い。



◇ **中高生に好かれる先生 ベスト 10**

- ほめ上手である。
- 生徒たちに分け隔てなく公平に接している。
- いつも笑顔で明るい雰囲気である。
- 生徒目線で話を受け止めてくれる。
- 授業が面白くわかりやすい。
- 指導は厳しいが、指導に温かみを感じられる。
- 人生の先輩として大切な価値観を教えてくれる。
- コミュニケーションが上手。
- ユーモアのセンスがある。
- 約束を守る。責任感が強い。



様々な指導のスキルはあるに越したことはありませんが、教師として大切な資質はスキルではなくマインドです。また IQ（知能指数）の高さではなく EQ（感情指数）の高さなのです。（10月号参照）